

山口徳地で満天の星空をみよう！

春

下の星図の円の中心が頭の真上“天頂”にあたります。自分の立っている場所での東西南北の方向と図の方位を一致させ、頭上にかざし実際の星空と見くらべます。春の星座は、まず、北の空高く、7つの星が大きなひしゃくの形にならんだ北斗七星を見つけ、これを手がかかりに他の星座や星の位置の見当をつけていきます。このひしゃくの柄(え)のカーブをそのまま南にのぼしていくと、うしかい座のオレンジ色の一等星アルクトゥルスを経て、南の空で白く輝くおとめ座の一等星スピカを見つけることができ、いまだどってきた弓なりのカーブを春の大曲線といいます。

さらに、アルクトゥルスとスピカを結んだ線分を底辺に正三角形をえがくと、頂点の位置にしし座のデネボラがきます。この3つの星を結んで春の大三角形といいます。また、しし座にはレグルスという白色に輝く一等星を従えています。ほか、日が暮れてしばらくは、西の空にオリオン座など冬の星座を見ることが出来ます。

この星図は、
 3月1日午後 11時頃
 4月1日午後 9時頃
 5月1日午後 7時頃
 の星空のようすです。

月と惑星は日によって位置が移動するため表記を省略しています。

